

令和元年 7 月

第 1 回白山市総合教育会議

会 議 録

白 山 市

# 令和元年度 第1回 白山市総合教育会議

日 時 令和元年7月31日（水）午後3時30分

場 所 白山市役所4階 402会議室

## 1 開 会

## 2 市長あいさつ

## 3 会議事項

(1) 「白山市教育大綱」の協議について

①次期白山市教育大綱の作業部会（案）について

②教育施策に係る意見交換について

(2) その他

## 4 閉 会

## 出席委員

白山市長	山田憲昭
白山市教育長	松井毅
白山市教育長職務代理者	水洞満子
白山市教育委員	北田朋幸
白山市教育委員	小寺正彦
白山市教育委員	尾張勝也

---

欠席委員 白山市教育委員 竹内千恵子

---

## 事務局出席職員

教育部長	毛利文昭
参事兼教育総務課長	吉森昭一
学校教育課長	山内満弘
学校指導課長	日向正志
生涯学習課長	重吉聡
子ども相談室長	岩村順子
松任図書館長	中村泰広
文化振興課長	谷野美紀
文化財保護課長	徳井孝一
スポーツ課長	東俊昭
学校指導課主任管理主事	木下貴博
教育総務課長補佐	笹津剛
教育総務課長補佐	河奥裕子

---

傍聴者 2名

開会 午後 3時30分

○参事兼教育総務課長（吉森 昭一）

定刻になりましたので、これより令和元年度第1回白山市総合教育会議を開催いたします。

竹内委員におかれましては、都合により本日は欠席をされておりますのでご報告をさせていただきます。

---

◎市長挨拶

○参事兼教育総務課長（吉森 昭一）

開会にあたりまして、山田市長からご挨拶を頂きます。

○市長（山田 憲昭）

本日は、令和元年度第1回白山市総合教育会議を開催いたしましたところ、委員の皆様方にはお忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、皆様方には、平素から白山市の教育の充実、発展のために、多大なご尽力を賜っておりますことを、心から感謝を申し上げます。

さて、この総合教育会議でたびたび申し上げますが、全ての市行政の根底にあるのは、人づくりであります。この人づくりの原動力になるのが学校教育、生涯教育といった教育です。

特に、将来を担う子ども達の教育を考える上では、小中学校はもとより、地域、家庭の関わりが不可欠であり、市長部局と教育委員会が共同で子ども達の成長にとって何が必要かを考えていくことが重要です。

このような中、法律改正によりまして、平成27年に初めて総合教育会議を開催し、策定を致しました「白山市教育大綱」が、今年度で最終年度となりました。

本日の会議には、来年度からの新たな「白山市教育大綱」の策定に向け、協議をいただきたいと思います。

現在の大綱の基本理念であります、「ふるさと白山市を愛し、誇りに思える人づくり」を引き継ぎながら、SDGsの理念と連動していく大綱（案）となっております。後ほど事務局から説明を致しますが、日頃から考えておられる、今後の白山市教育に係る課題展望等を踏まえ、皆様方には忌憚のないご意見を賜りたいと思います。

どうぞよろしくお願い致します。

○参事兼教育総務課長（吉森 昭一）

ありがとうございました。

これより会議事項に移りたいと思います。議事の進行方につきましては、主宰者であります市長にお願いしたいと思います。それでは、市長よろしく願いいたします。

---

◎会議事項

○市長（山田 憲昭）

それでは早速ですが、会議事項に入りたいと思います。本日は、皆さんの忌憚のないご意見をよろしくお願いしたいと思います。

まず会議事項（1）「白山市教育大綱」の協議についてであります。①次期白山市教育大綱の作業部会（案）について事務局より説明をお願いいたします。

○参事兼教育総務課長（吉森 昭一）

（資料にて説明）

○教育総務課補佐（笹津 剛）

（資料1にて説明）

---

◎意見交換

○市長（山田 憲昭）

ただ今、次期白山市教育大綱の作業部会（案）について事務局より説明がありました。

このことについて、教育委員さんからご意見を伺いながら進めていきたいと思いますが、次期白山市教育大綱の作業部会（案）については、現大綱策定から5年が経ち、SDGsとか、エコパークとかいったもの。また、人生100年時代と言われるような、健康とか生涯教育といったことが出てきました。そのことを盛り込んだ内容になっていたかと思います。

SDGsにつきましては、昨年6月15日に、総理から認定書をいただきました。実はジオパークを世界にということ、フランスパリのユネスコ本部に2回行きました。その中で、国連が2015年に定めたSDGsが基本となってジオパークなどが進められています。

このことは、一言で言えば世界平和であり、環境、経済、社会等がきちっと守られてこそ平和が保たれるという中で、17の目標がありますし、169の具体的なターゲットもあります。

基本的には、市の行政を進める上で、17の目標項目が、どの事業に当てはまるのかを意識しながら、各事業を行っていくことであり、その中の教育としてどのようにしたらいいのか。

市として、自分たちでできることをどのようにするのか。ということで、「もったいないね」とか、LEDの電気で、ちゃんと「資源を守りましょう」とか、市民が活動しやすいようにしていただく、それがスタートだと言うふうには話をしております。

最近まちづくり会議で言っていることは、みんなが取り組めること。

それは、ゴミ問題での無料化をどうにかして続けられないか。一人当たりのゴミの排出量をみんなですべて減らそうではないか。いろいろと問題はあります。

それが、家庭からも子ども達からもそういうふうにつながっていく形になれば、一番このSDGsが身近になってくるのかなあというふうには思っております。

そういった観点からも、学校、家庭、教育と言う中に、SDGsを取り込んでいくことが、大きな成果につながっていくのかというふうには思っております。

今日は、NTTドコモが北陸電波管理局に5Gの免許が今朝、8時30分になりましたけれども、これは金沢工大とNTTドコモと白山市が連携をしてこ

の5Gを進めていこうというようなことで、昨年連携を行ったことで早く免許が下りましたけれども、企業もこのSDGsを通じて経済活動もそうですし、社会に繋がることとして取り組むことと言えば、ありがたいなあと考えております。

ですからいろいろな企業がどんどんと提携もしていきますし、併せて大学の方では、東京の組織「東大地域社会連携研究機構」と連携協定を締結し、白峰に拠点を造ってもらいましたし、金沢大学もやはり、そういうふうにして造っていただきました。

高等教育機関やいろいろな企業で、そういうところとうまく連携してSDGsというものが一つのきっかけになって、世界基準で地域づくりに繋がっていくことになる。それを、学校、生涯学習の中で取り上げていけば、タイムリーな事になるのかなと思いますので、ここは改定のいい時期かと思っていますところでは。

SDGsの5段階で言えば、まだ知らせるという段階であり、2段階目までは行っているかいないの所で、まだまだゴールは見えないところではあります。まずは学校教育等を含めて進めていくことも大事だと思います。

先だってはぶんぶんボールにSDGsの推進大使を任命し、推進をしていただいておりますが、分かりやすく子ども達に理解してもらえるようにするとか、青年会議所の皆さん方とも提携をするとか、また、若い人たちにもやってもらえるようになればというふうに思っております。

新たな観点で、SDGsを通じて、そんなものがタイムリーでやっていけたらいいのかなと思っていますので、委員の皆様方もそんなことを通じて、この大綱の事も含めて、今思っていることについてお話ししていただければありがたいと思っています。

よろしくお願い致します。

それでは、例によりまして順番に伺いたいと思います。

水洞教育長職務代理さんより、この「教育大綱」の内容等について何か思うことがありましたらよろしく申し上げます。

## ○教育長職務代理人（水洞 満子）

先ほども市長さんからもお話しがありましたように、2015年4月17日に第1回の総合教育会議が開かれ、まる4年が経ちました。新しい教育委員会制度になっても、まる4年が経ったと言うことですが、ただ、人を育てるうえで、教育大綱の中で変わらないもの、変わってはいけないものがあると思いますので、この基本理念とか、基本目標がぶれてないのはいいなと思います。

事務局からの説明を聞けば、時の流れとともに、たとえば、「健康で笑顔あふれる元気都市白山」のスローガンもとの健康都市宣言や地域資源、白山手取川ジオパークの理解を深める教育や学習の機会を充実し、そして今お話しがありましたように、SDGsの取組の推進などが加わって、それに沿って、教育施策の内容がそれらを反映して修正がなされていて、いいかなと思います。

具体的ではないのですが、白山市らしさというか、この中にもありますが、自然の豊かさや感性を豊かにする体験など、白山市でしか出来ない体験を子ども達には経験してほしいと思います。

今、市長さんの説明を聞いて分かったのですが、2ページ目の3、健康な心と体を育む教育の充実の中の、②の「もったいない」や「お互い様」という言葉だけが全体的には唐突のような感じを受け、美しいものは美しいと感じたりする心も入ってくると思いますので、ここだけにとらわれるような感じを受けるのが気になった次第です。

以上でございます。

## ○市長（山田 憲昭）

ありがとうございました。では次に北田委員お願いします。

## ○委員（北田 朋幸）

私も、時代の変化にあった内容で修正されているのはいいと思います。ただ、私が感じたのは、2の確かな学力の形成と教育環境の整備についてですが、①⑤についてはさわってはないですが、①の内容についてお願いします。

私は、学校訪問とかをしていてのいじめの関係ですが、小中学校の連携推進に関しては、校長先生方々も小中連携を地区別にしっかりやっていらっしゃい

ますし、私が見て思うことは、幼・保・こ（幼稚園・保育園・こども園）と小学校の連携があまりなくて、小学校の1年生に入って来たときに、子ども達の素質をつかむのに少し時間がかかってしまい、その間にいろいろな問題が起こり得るような気がします。なるべくいじめ問題に関しても、早い解決に持っていくためには、やはり幼・保・こ（幼稚園・保育園・こども園）の連携をこの施策の中にどうしても入れてほしいというのが私の意見です。そうなれば、早い時期から個々の素質も分かって、早めに物事が解決できます。また、早い時期からの道徳を実施することによっていじめ問題が起こらないような対処ができますので、幼・保・こ（幼稚園・保育園・こども園）の連携を入れることで、残り4年間の大綱の中においてもいい物になるのではないかと思います。

以上でございます。

#### ○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。それでは小寺委員お願いします。

#### ○委員(小寺 正彦)

私がまず思ったことは、この白山市教育大綱で、「ふるさと白山市を愛し、誇りに思える人づくり」、この基本理念はほんとうにいいものだなあとつくづく思いました。

特に子どもを育てる場合、一番大事なものは学校教育、それから家庭、そして地域。特に白山市の場合は、いろいろな地域とのつながりが子ども達にはあります。

特に前年度は、防犯とか地域の方々の子どものみまもり隊の組織化等、すばらしいものが去年1年間でできたと思っております。

そういうものを見ていって、何が核になるかなと常に思っていたんですが、1の郷土愛を育む教育の推進の②で、公民館を拠点とした生涯学習事業の更なる充実を図るとともに、の公民館というものが、もちろん社会教育施設も利用しなければならないと思いますが、地域にとっては、公民館を窓口にするというようなことが、ものすごくありますので、改正の時にはどのような形でもいいので残してほしいと思いました。

公民館活動の中には、生涯活動ももちろんありますけれども、子どもの教育

についても、公民館活動の中でけっこう地域の歴史を学ぶ機会等を作っていくこともありますので、そういうことも含めて、盛り込んで作っていただきたいと思います。

次に、基本目標の3健康な心と体を育む教育で、今までの推進から充実に変えた訳でございますけれども、②の「もったいない」や「お互い様」については、我々、常にいつも思っていることであり、特に近所では「お互い様やね」と言いながら過ごしていきます。田舎であればあるほど、「お互い様」が生きていきます。そして、先ほど市長が言われましたように、無駄なものは省く、もちろん電気にしてもいる物はいるというところで、LED化であるとか、環境にやさしいものを使っていくという、そういうことも含めて「もったいない」を推進できればいいとつくづく思いました。

そのようなことで、それらも含めて、「もったいない」や「お互い様」を残しながら、子ども達の育成を図っていただきたいと思った次第でございます。

以上でございます。

#### ○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。それでは尾張委員お願いします。

#### ○委員(尾張 勝也)

私は、SDGs とかにこだわっていますので、3分ではとても話は出来ませんが簡単に話をさせていただきます。

SDGs 17の項目とかはありますけれども、一番大事なものは、持続可能、循環型社会という自然の中で活動をしている者にとっては、当たり前であって一番大事な観点です。でも今の経済というのは、決して循環型になっていないので、ここは、私はSDGs が出てきたおかげで、私たちが大事やと思っていたこと、つまり、自然の中で遊んだり、自然に関わっている人が大事にしてきたことが、違う形で目の目を見たなあ、というふうに思っています。

循環型、持続可能な事をもっと大事にすれば、全体的にもう少し自然という言葉をもっと入れていただきたいと思います。今は詳しく話はできませんが、たとえば、この郷土愛のところに、豊かな自然をはじめとか、ジオパーク・エ

コパークとかは書いてはあるものの、自然そのものの循環システムや、循環サイクルが、それが今、人間が生活しているサイクルとあまりにも違い過ぎるということです。だから、いろんなものの循環と人間の生活とかが、離れ過ぎていると思いますので、もっと、もっと自然の時間というか、流れを大事にするいい機会だなと私は思っています。

私が気になるのが、ジオパーク・エコパークというのはいいんですが、あくまでも手段であって、そういうものを通して、何を育むか、何を大事にするか、ジオパーク・エコパークが大事なものではなく、ジオパーク・エコパークを通じて、市民・県民・国民という人たちに何を伝えなければいけないのか、どういことを伝えなければいけないのか、そういうことをもっと盛り込んでいただきたい。そのキーワードが本当にSDGsの持続可能であると私は思っています。

また、3の健康な心と体を育む①で自然体験活動という言葉があったのに、修正案では、様々な体験活動になってしまっているので、ぜひこれは、自然体験活動という言葉を入れていただきたい。

それと、⑥のスポーツですけれども、最近、何がスポーツというのかが私は分からなくなってきた、eスポーツという言葉があって、これはゲームではないかと思えます。あれまでをスポーツにするのかということで、スポーツとは一体何なのかという定義を、我々、今、きちんとやらないと、俺、eスポーツやっているからスポーツをやっているという子どもが出て来た時に、それでいいのか、あれがスポーツなのか、どうなのか、私はスポーツとは全然思っていないので、この辺もスポーツとは書いてありますが、eスポーツという言葉が出てきて、世の中で今、ある程度の広がりを見せていますが、そこでの区別化、差別化ということをしてほしいというふうに思います。

繰り返しますが、私はこの白山市において本当に素晴らしいと思ったことは、学力だけではなく、豊かな感性のびのび教育ということで、感性について非常に強く打ち出している教育施策は、私はすごくいいなと思っています。何となく、その感性という言葉が、後々になってきている、目立たなくなっているような気がしていますので、私としては、自然、自然体験だけではないですが、そこから育まれる豊かな感性ということが、今後、少し表に出て、それが

本当にSDGsの理念そのものと根本的につながっているというような大綱に  
していただきたいと思います。

以上でございます。

#### ○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。それでは最後に松井教育長お願いします。

#### ○育長(松井 毅)

それでは、大綱の修正(案)を作業部会で作っていただきましたですけれど  
も、あまり細かいことは言いませんが、少し言わせていただきます。

白山市の特徴は、やはり尾張委員も言われたように、豊かな自然が一番であ  
ろうと思います。

一昨年、白山開山1300年ということでございました。次の100年後、  
開山1400年を目指してこの自然をどう、継承していくのかということがあ  
りました。この自然に対して、我々大人ばかりだけではなく、子ども  
のころから自然に対する尊崇の念とか、あるいは大切に  
して守り育てていく、そういった態度が大事であ  
らうと思っております。

教育基本法とか、学校教育法、この両法律とも謳っているのは、生命の尊重  
と、もう一つは、環境の保全に寄与する態度を養うというこの二つの言葉です。

生命の尊重ということに関しては、3番目の健康な心と体を育む①に命の尊  
さということで謳ってございますけれども、もう一つの自然環境の保全に寄与  
する態度を養う、この辺が、環境教育ということでございますけれども、出て  
いないように感じました。

今、SDGsの取組を進めているところでありますので、郷土愛を育む教育  
の①か②のどちらかで、そういった自然環境の保全という意味合いの文言も入  
れていただくとありがたいな、と思います。

③の笑顔輝くまちづくり、これは文言の話ですが、総合計画では、健康で笑  
顔あふれる元気都市というふうになっておりますので、やはりこれは、笑顔輝く  
まちづくりではなく、笑顔あふれるまちづくりではないかというふうに思いま  
す。

次に⑥情報教育の一層の充実については、前の大綱にもありますし、今の大綱にもあるわけですがけれども、今国会も6月で終わりましたけれども、首相安倍さんの所信表明演説の中で、教育関係について2つの言葉で触れておりました。

一つは遠隔教育、もう一つはプログラミング教育です。プログラミング教育とは論理的思考力を養うことでありますけれども、教科書、あるいは机の上だけで理解できるものではございません。やはり実際にタブレットとかパソコンを操作してみないとこれは理解できないものです。そういうところから、ICT機器をしっかりと活用してやってほしいということをおっしゃったわけでございます。しかし残念ながら、この学校のICT化が進んでいない現状にあります。これは、白山市ばかりだけではなく、国全体でもあまり進んでいませんし、このことは、政府自体も大変な危機感をもっておられるようでございます。

文科省は、2018年から5年間かけてパソコンは小中学生3人に1台の整備をする。そして、5年後の2023年度からは、1人に1台の整備を進めるという計画でありましたけれども、もうすでに、1人1台を整備するようにと、言い始めております。今、本当にタブレットとかパソコン、電子本、こんなICT機器というものは、学校における鉛筆やノートと同じように必需品になってきているのではないかと思います。

来年度から小学校の教科書が、変わります。この中に、QRコードがありまして、このQRコードにタブレットやスマートフォンをかざすだけで、たとえば英語の教科書なら、英語で音声が出てくる、そんな時代です。ですから、タブレットとかスマートフォンがどうしてもいるという、そんな時代になってきています。

今年大阪で、スマートフォンの持ち込みを許可しました。これは、防犯の問題があつてということですがけれども、現実にはもう時代が全然変わっているというようなことです。それから、情報教育の充実、やはりICT機器をしっかりと整備していくことだと考えておりますので、2番目の教育環境の整備のここには、⑥の外国語教育や情報教育の一層の充実については2番目の方がいいのではないかと考えております。外国語教育については郷土愛と少し違うのではないかと気がしております。

次に、3番目の健康な心と体を育む③の子どもの権利の保障について、あらゆる相談に対応できる体制の充実とあります。このあらゆる相談に対応するというので少し話をしたいのですが、この相談業務については、教育委員会の各部署で、作業をしているわけですが、特に相談ということで特化いたしますと、この部署は子ども相談室であろうと思います。この子ども相談室の相談体制については、実際のところ平日は午後5時15分、木曜日だけは午後6時30分です。ですから後は5時15分で終わっている。土日は休みということになっています。

子ども相談室の相談件数ですけれども、昨年1年間だけで、890件の相談がありました。虐待に関するものが540件など、ほんとうに多いわけです。3年前の平成28年の相談件数は484件ですから、3年間で1.84倍、やがて倍近くに増えているわけです。この890件の相談の内、電話相談416件となっております。今のところは5時15分までの対応となっておりますが、はたしてそれで大丈夫かなと思っております。できれば、電話相談ですから、夜の7時あるいは8時まで対応ができればいいのかと思っはいますが、実はなっていない。職員は5時15分に帰っているかという、簡単に帰れないわけです。夜になると、家庭を訪問しての面接相談だとかで、全然帰ってはいませんが、電話相談をするという体制になっていない。この辺、職員の人事体制をしっかりしたいということで、私は、今年の冬に市長さんをお願いしまして1名増員していただきました。昨年までは専任の職員でしたが、今年は兼務ということで、実際には1名プラスではなく、0.5という人数の増ということです。ですから、この辺の体制が、ちょっと十分にまだ整っていません。

電話相談業務とは、本当は8時、9時、あるいはひょっとしたら24時間体制にでもしなければならぬのではないかと、いう気がしております。ここでの言葉で、あらゆる相談体制というのは、なかなか難しいかな、ハードルが高いかなというふうに感じております。

以上でございます。

## ○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。

かなり皆様のご意見がいっぱい出てきていますので、はたしてどうなるか心配ですが、時代に沿って行うことと、普遍的なものは普遍的なものとして行うこと。ただ、相談電話については……。現在の学校は、留守番電話の切り替えは何時までですか。

**○学校指導課主任管理主事（木下 貴博）**

小学校は7時、中学校は8時です。

**○市長（山田 憲昭）**

とりあえず時間を区切って行うことによって、お互いに解放感というか、安心できると思います。24時間となったらこれは大変なことになりますし、専門性の分野となりますので、相談に乗ってあげる体制というのは大事です。しかし、四六時中、24時間体制については、言ってもいいができませんでしょう。そんな感じがします。

それでは、発言については一巡しましたので、これからフリートーキングで、言い足りないことなど、何かありましたら少しお話しできればと思います。水洞委員何かありますか。

**○教育長職務代理者（水洞 満子）**

はい。小学校と中学校の留守番電話は7時とか8時とかは、働き方改革でもありました。しかし、子どもの相談や虐待も含めては、時間にとらわれないものでもあります。その両立、あるいはバランスの落としどころはどうなのかと思います。

**○委員（尾張 勝也）**

どんなことでもいいですか。先ほど言い忘れたことがありました。3番目の

健康な心と体を育むところだと思いますが、遊びという言葉はどこかに入れないでしょうか。集団とか、野外での遊び、ほんとうに今の子どもたちに足りないのが遊ぶ時間だと思います。子どもたちが安心安全に遊べる環境を作るのが、我々大人であり、行政の責務の一つだと思います。何か決まった中での、大人管理のもとでの遊びではなく、子どもたちが自分たちで、あるいは外で遊ぶ。遊びとはものすごく教育に大事なものだと思います。

昔から、よく学び、よく遊べと言われる言葉があるくらいなので、だから、どこかに遊ぼうよといったものが、教育大綱に入れるべきかについては、私は分かりませんが、どこかに提言というか、「遊びを大事にしましょうよ」とどこかで謳われてほしいなという気持ちがあります。もっと遊びというものが大事なような気がします。

#### ○市長(山田 憲昭)

もう一点として言っていた、小中連携については学校教育、教育委員会の範ちゅうであるからいいけれども、幼保については課が違います。それで入れないのか、本当は幼稚園と学校の連携はものすごく大事であると昔から言っておりますし、文科省と厚労省の違いで、教育委員会の範ちゅうでないと言う事かも知れないが、この連携についてはものすごく大事です。これはいつも言われております。

#### ○学校指導課長(日向 正志)

はい。とても大事なことだと思います。

小学校の方では、幼稚園などとの関連も含めて、小学校での学校生活にすぐなじめるようにということで、スタートカリキュラムにより、幼稚園からの連携がうまく取り込むことができるようなことを学校の方では行っております。

#### ○市長(山田 憲昭)

それは大切だと思います。

今年の組織替えて、スポーツ課長も出席しておりますが、本当は教育委員会からはずれたはずだけれども、そんなことだと、ここでスポーツのことは語れ

ないということではなくて、スポーツも一緒に入っているわけで、やはり、部と課が分かれても大切なものは大切ではないかということです。だから、幼稚園と保育所の連携が大切であれば、そこは超えるということで、教育という意味ではやはり連携があってもいいのではないのでしょうか。

○委員（北田 朋幸）

幼稚園、保育園の園長さんと話をしますと、園で、どういうふうな教育をしているかを学校にも知ってほしいし、学校の教育方針もお互いにすり合わせたという話はよくされます。

○市長（山田 憲昭）

それは保育園、幼稚園はあるけれども、最近では幼保連携の時代になってきています。もう、完全に教えると言う時代に入ってきています。やはり連携をとらなければならないのでしょう。

○委員（北田 朋幸）

小学校の校長先生は、連携の中には来ていただけますが、来て、見て、帰るだけであまり話し合う機会がないとおっしゃいます。

○市長（山田 憲昭）

それは組織が違うという意識が強いのでしょう。

○委員（北田 朋幸）

そうですかね。

○教育長（松井 毅）

行くことはいきますね。

○委員（北田 朋幸）

できれば大綱に、この言葉を入れてほしい。

○市長（山田 憲昭）

それと、公民館の話もできましたけれど、市は生涯学習における公民館の役割はやはり大きいわけです。実際、公の言葉かも知れませんが、公民館を通じて行っていることは大きい。公民館という言葉が消えることになったらさびしいのでは。市において策定するのであれば、すごく公民館は重要ではあります。

○教育長職務代理人（水洞 満子）

教育大綱の定義については、1ページにあるように、詳細な施策について策定することを求めているものではないですので、私は、2015年の4月の会議を振り返って見て、今回の会議は白熱してすごいなと思いました。これが4年間の成果なのか、以前はさらっと言っていた感じで、皆さん言葉を大切にしておられて真剣に考えておられるのだと感じました。

○市長（山田 憲昭）

この意見をまとめて練るには、相当なエネルギーがいるのかと思います。

○教育長職務代理人（水洞 満子）

ほんとうに原案もすごく良く練られて、いろんな所のバランスに配慮されていると思いました。

○市長（山田 憲昭）

先ほどの話で、SDGsにたどり着いたというのは、ジオパークに取り組んでいたらSDGsにたどり着いたという事です。極端に言えば、SDGsに取り組んでいれば、ジオパークをやっているということになります。SDGsは、ジオやエコの上位に位置する活動であります。

また、プログラミング教育等については、当然これから入ってきますので、そのところを押さえておかないと遅れてしまうおそれがあります。そこに移

れるようにしていくことも大事です。

### ○教育長職務代理者（水洞 満子）

情報教育についてですが、しなくてはいけないことは分かっていますし、先進校もある中で、白山市は遅れているかもしれませんが、今の現状で、白山市の1万人の子どもたちに何ができるか。きちんとした目標で、今年はここまでやるとか、全員に対しては、ここまでと。たとえば、音楽のピアノだとして、音楽という授業があり、授業以外でもピアノを習っていたり、バイオリンを習っていたりする子は、やはりすごく先を進んでいるかもしれない。小学校なり中学校の音楽の教育は、どこを目標に、どこにターゲットを置いてやるかというのは、すごく難しいと思います。でも、パソコンにしてもタブレットにしても、すごく先に進んでいる子もいれば、全然さわったこともない子もいるかも知れません。そういう中で、あいまいに使えるというか、がんばれがんばれといっても、たくさんの先生方はどう動いていいか分からない。まずは、最低限ここまでやろうとか、ここ学校はここまでやろうとか、そういうふうにやらないと、なかなか進まないというような気がします。白嶺小中は、ロボットを買うということで、このところをやるとか、どこを目標にここまではやってほしいとか、そういうねらいとかをもう少し具体的に、しかも、ある程度達成可能なところを押さえていくのも大事なかなと思います。

### ○市長（山田 憲昭）

そのとおりです。だからSDGsの難しいところは、達成可能な目標を決めて、それに向かって取組めといいます。その可能な目標が決まらないと、もう取組まないという話になります。でも我々は、可能な目標や、ゴールを見据えて取り組むことは難しいという部分ではありますが、目標を決めて取り組むことは必要ではあります。

### ○教育長職務代理者（水洞 満子）

それでは、もう大綱で終わりそうなので、外国語教育に触れます。

今年、たまたまアメリカに行きましたけれども、伝えたいことがあるのに英

語が出てこない。聞き取れないことがありました。そんなもどかしさで言いますと、もう少し英語を勉強したいなというようなことで、きっかけや動機が生まれてきます。

たとえば、人間やる気になって本気を出せば、何歳でも食べていくためには、英語でも勉強しなければと思えばするだろう。

私が思うには、とにかく英語ぎらいを作らないでほしい。英語は苦手という意識を、小学校の時期に作らなければいいかなと思います。やろうと思った時に、たとえば、アプリなり、テレビなり、ラジオなり、パソコンなり、いろいろな保護手段があると思うので、とにかく、英語を勉強したいなあとか、英語が好きとか、そういう子どもを育ててほしいと思います。あまりにも、これをしなければとか、ここまでしなければいけないというのではなく、もっとリラックスしていったらいけないでしょうか。

#### ○市長(山田 憲昭)

それは英語に限らないのでは。この間の白山市健康都市宣言記念講演で、講師の桑田真澄さんではありませんが、小学校も中学校も勉強ぎらいで落ちこぼれやったけれども、高校になってから、授業は絶対聞く。そこだけしか勉強しない。ちゃんとやったらすごい成績が上がったという意味でいいですと、小学校、中学校で勉強をしなくてもいいのでは、となるかもしれませんが、そういうやりたいという意識を持てばいいので、極端に、小学校は遊んでいても、勉強したいと思えば、一生懸命やれるのだから。それより嫌いになったことの方がよほどまずいので。それは英語だけではないです。

だから、感性も含めて嫌いになってしまっただめで、やる気をどう引き出すか。その動きが大事なのです。

#### ○市長(山田 憲昭)

それでは、先を進めなくてはならないので、先ほどの説明では8月いっぱい案を作り、9月から11月にかけて修正するということですか。

○参事兼教育総務課長（吉森 昭一）

はい。この後ですが、今委員さんからご意見をいただいた点も踏まえて、再度修正をしまして、作業部会でもう一度（案）を作成し、その点を踏まえ、会議する時間がなければお互いに情報を交換しながら、最終的には1月に決定のものを作っていきたいと思っておりますので、その間、若干のやり取りをしながら進めていきたいと思っております。

○市長（山田 憲昭）

はい。それはそのような工程スケジュールで進んで下さい。

それでは、（2）その他に移ります。何かありますか。

○教育長職務代理者（水洞 満子）

全然違うことでもいいですか。

○市長（山田 憲昭）

はい。その他ですのでどうぞ。

○教育長職務代理者（水洞 満子）

先ほどの北田委員からも話がありましたが、岐阜県で中3の男子が転落死するという事件がありました。同じクラスメートの女子生徒から担任の先生に向けて、いじめの告発があったにも関わらず、その告発メモを担任の先生が無くしたこと、7月30日の新聞では、埼玉の中1の男子が昨年7月に自殺したことで、第三者委員会は担任に幼さがあったのではないか。7月29日の報道では、仙台市の中2の自殺はいじめが要因でもあるのではないか。7月26日の報道では、茨城県の取手市の中3の女子生徒がいじめを受け自殺したという、同じような報道があったのですが、ほんとうにすごく時間もかかるし、先ほどの子ども相談室の話にも関わってくるかと思っておりますけれども、くれぐれも小中でのいじめに関する対応を丁寧にしていただきたいと思いますと改めて思った7月でした。

なかなかアンテナを張るのは難しいと思っておりますが、学力調査の結果がどう、とかというよりも、いじめに関する問題の方に気を配っていただきたいと思います。

ています。

### ○市長(山田 憲昭)

まあ、いじめは無いといったら駄目で、いじめはあります。いじめている子どもが、いじめと思わない場合があるということです。第三者が見たら、これはいじめだと、言ってやることも大事だし、いじめに対して早く手当をすることです。ない、ない、と言っているとずれてきます。我々も小さい頃は、何かしら言っていたら、それはいじめだと言われたこともあります。いじめだとは思っていません。思っていなくても相手が、これはいじめだと思うと、いじめになります。そこを第三者的にうまく収集して、修正するようになっていくことが大事である。

それと私は以前からも言っていますが、たとえば、学校に警察官が入るのがいやだと言われます。警察官が入ってもいいじゃないか、それを事前に留めておく方がいいじゃないか、入ることを恥じと思わないで、やっぱりそこは、自殺者がでないようにする方がもっと大事である。そういうような気持ちでやらないと、「ない」、「ない」、「ない」、でやっている、最終的には大事になってしまいます。「ない」というのは隠すということですから、隠したらダメです。

### ○委員(北田 朋幸)

学校訪問に行っている、いまいち、その先生に対する認識が少し甘いというか、昔の子どもは、家で悪い子、外でいい子、外で何かすると家でもおこられました。今の子どもは、親の前では大変いい子で、外で悪さをすることが多くて、親も完全にだまされます。学校でいろんなことをやっていますが、たとえば、一人のいじめられっ子がいて、ある子にいじめられ、注意しても、また違う子にいじめられて、それぞれにいじめられてしまいます。これは裏があり、いまそのようないじめが多いため、いじめに対する認識の違いによる甘さがあります。毎回、指摘はしていますが・・・。

## ○市長(山田 憲昭)

軌道修正ができない状態になってしまっはいけない。軌道修正できるうちに修正できるような体制を作っていかなければなりません。

## ○委員(北田 朋幸)

アンケートでも、低学年のうちは、かなりの結果が出てきますが、高学年になればだんだんとアンケート結果が少なくなっています。早いうちに、いじめという道理をうまく子どもに早く理解させてあげたいと思っています。

## ○委員(尾張 勝也)

いじめに関して言えば、ほんとうに早めに見つけて早めに対処するという、当たり前のごとですごく大事なごとと一緒に、これも当たり前のごとですが、いじめの話をする、どうしても、だんだん、こんなところについて、一つも見逃すまいと、もちろん大事ですが、北田委員がいつも学校訪問で言うのは、先生方もっと子どもと遊んでほしい。

細かく見ることも大事だけれど、やっぱり、もっと大らかな、大人と子どもの関係、きれいな事かも知れませんが、子どもにとって大事なのは、人生って楽しそうやなあ、大人っていいなあとか、そういう当たり前のごとを感じるごとなが出来ない、ストレスフルな世の中というか、大人も子どもも、ストレスになって、そこを直さないかぎり、直すのはむずかしいけれども、そこを同時に何かしていかないかぎり、きちんと対処するところと、もっと大らかに振る舞うような、自然の家とかに来ると、いつもいじめっ子みたいな子は、一番元気なんです。

高いところから飛び込めとか言う、一番に「おっしゃ、おれやるぞ」とか言って「ドーン」とやります。多分、この子は相当いじめっ子やろなあ、やんちゃなやつがそうなんです。普段からエネルギーが有り余っている。そして、ストレスが溜まっています。爆発したいのにできない。だからそんな子が、何かみつけたら、そこに自分のストレスをぶつけるような構図も絶対にあると思います。

私は、子ども達にストレスをスポーツだけでなく、良い方に出してもらおう。

だから遊びは大事だと思います。思いっきり遊んで、場合によっては、死ぬほど怖い目にあいながらも遊んでもいいけど、思いっきり遊んで、「生きとるっていいなあ」とか「人生楽しいなあ」、「人生悪くないなあ」と思うような環境が私は、白山市にはいっぱいあると思います。この間、ボストンの子どもらを川につれていったら、ほんとうにいい顔をしてみんなが活動をしていたし、そういう白山市が持っている資源を、もっともっと、生かして、きちっと見て対応する部分と、もっと大らかに、子ども達のストレスが余りたまらないような活動を提案していきたいなあと思います。

#### ○委員（北田 朋幸）

白嶺とか、中学生と小学生の高学年が白山登山を掃除しながら毎年上っていますが、どうして、山の学校だけなのか常々思っていて、浜の学校も山へ登ってゴミを拾うし、山の学校も浜へ来て浜辺のゴミ拾いをする。そういうことが、ほんとうの自然環境を保全するためになるのではないのでしょうか。

#### ○市長（山田 憲昭）

それは、昔、我々が若い頃、子どもと一緒に道路ぶちの空き缶拾とゴミ拾いをしました。これやったら、道路のふちからゴミがなくなりました。子どもが捨てたらだめやと言ったら、親は捨てられないから。そんなようなことがものすごく大事で、白山がきれいだというのは、戦後、青年団が、美化登山をずっとやっていました。若い人たちが美化登山をやっていたからきれいなんです。きれいになると誰もゴミを持って来ません。汚れとるとゴミがまた溜まってしまいます。

#### ○委員（北田 朋幸）

たしかに、子ども達と登ってもあまりゴミがありません。

#### ○市長（山田 憲昭）

それはきれいだからきれいなんです。来年はトイレが水洗になりきれいになります。だから、もっときれいになります。

○委員（北田 朋幸）

ただ、そういう体験が白峰や白嶺の山手の学校が多いので、市全体にそういうことを広げたらどうかなあとと思います。白山市はスキー場に関しても、市で補助をしています。白山登山に関しても少しそのようなことがあったらいいと思います。

○市長（山田 憲昭）

そこは、市の子どもなら白山は1回は登るところことも大事でしょう。子どもの頃に1回でも登っておくことは大事でしょう。

○委員（尾張 勝也）

白山登山のことで、前にちらっと考えていたことで途方もないことを言いますと、たとえば、白山市の企業とかなんかは、白山登山のときには公休扱いにするとか、学生も含めて、何か、土日だと混んだりもするので、ほんとうの白山の良さは空いているときというか、人がいないときにはほんとうにすばらしい山だと思うし、市は、大人も休み取って、子どもも休みとって登ったらいいと思います。

○市長（山田 憲昭）

市の職員（新規職員）になったら、ちゃんと登るようにしています。教育委員会は新採の先生もみんな登るようにしたらどうでしょう。

○教育長職務代理者（水洞 満子）

先ほどのいじめの問題ですけれども、見張っているとかではなく、子ども達が先生に訴えて来たらそれをもみ消したり、先生方は忙しいから余裕がないので、私たちは対応をしなくてもいいというのではなく、訴えてきたり、見た時は、きちんと受け止めて、丁寧に対応をしてほしいということですので、よろしくをお願いします。

### ○委員(尾張 勝也)

最近の学校は、休み時間も給食の時間も掃除の時間も、それはいじめということではなく、安全ということだと思いますが、先生がずっと子どもの前にいて、いい意味で守っているのかも知れませんが、1日中子どもが、大人の管理下にいるという感じがします。学校も地域も含めて、もっと子どもだけの時間とか、そっと悪いことをする時間とか、そういう時間が子どもには必要で、いまの子どもだと、とんでもないことをしてしまうのかもしれませんが、何か子どもの世界がほしいなあと思います。

### ○教育長職務代理人(水洞 満子)

逆に、ずっと大人がいると、大人がいないときにめちゃくちゃになってしまう。という可能性もあります。

### ○委員(尾張 勝也)

大人がいなくても自分たちでちゃんといろんなことを守っていく、自立していけるような集団でないといけない。先生が厳しい学校だと、先生がいなくなった瞬間、わちゃわちゃになってしまいます。どこの学校とは言えませんが。

大人が周りにいなくても子供らが自分らで、いろんなことをやっていく、そんな自立した子どもの遊び集団というか、そんな集団がもっともっとできてくれたらというか、創れたらいいなというふうに思います。

### ○委員(小寺 正彦)

一つだけよろしいでしょうか。学校訪問で今、いじめとかの話がでたんですけども、白山市の場合、やはり自然に囲まれた環境豊かな地域ですし、そして、七ヶ用水等をはじめ、伝統的な全国にもまれな用水とかも持っています。そういうところの教育を以前5、6年生がしていましたが、ほとんど時間的には、単元でいえば少ないです。

鳥越の方には大日川ダム、あれも農業のために、わざと下の冷たい水を放流しなくて、上っ面の水を放流するとか、そういうところに気をつけているような施設です。ほんとうに先人の人たちが、いろいろいっぱい作っていただいた

ものを、勉強で教えていただいているかと思ったら、ほんとうに知らない子どもたちが沢山いることが、ほんとうに残念だと学校訪問で思いました。ですから、やっぱり、枝権兵衛がどうか、小川幸三とはどんな人やったとか、そういうことを含めてもう少し、小学校5、6年生には教えていただきたいと思えますので、地域の方を学校教育の方で取り上げていただきたいと思いました。そして、若い先生では反対に、消防団の訓練しているところに行って、直接聞きながら子どもたちに教えていた先生もいましたし、先生によっては差が激しいなあと、社会の教育については思いましたので、特に地域の伝統文化産業を知らしめていただければと思った次第です。

#### ○市長(山田 憲昭)

身近な人だったら余計に感情も入りますし、教えやすいのではないのでしょうか。それは大事なことです。

他に何かありませんか。

ないようですので、これで議事の進行を事務局にお返しします。

#### ○参事兼教育総務課長(吉森 昭一)

本日は貴重なご意見どうもありがとうございました。先ほどお話もしましたが、大綱につきましては、作業部会、また修正案につきましては、皆様にご提示をしながら、第2回の総合教育会議までには決めさせていただきたいと思えますので、引き続きよろしく願いいたします。

それでは、これを持ちまして、第1回白山市総合教育会議を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

---

閉会 午後4時52分